

# 創立85周年を迎えて

一般社団法人 日本医薬品卸売業連合会 会長
宮田 浩美

日本医薬品卸売業連合会は、本年１月、創立85周年という大きな節目を迎えました。

昭和16年の創立以来、わが国の医薬品卸売業を取り巻く環境は、戦後の復興、高度経済成長、医療制度改革、医薬分業の進展、流通の近代化など、時代とともに大きく変化してまいりました。その歩みは決して平坦なものではなく、幾多の困難や試練を乗り越えながら、医薬品卸はその時々の社会の要請に応え、わが国の医薬品流通を支える役割を果たしてまいりました。

とりわけ、災害や感染症の流行など、社会が大きな危機に直面した際にも、医薬品卸は、医療機関や薬局等へ必要な医薬品を確実に届けるという使命を果たし続けてきました。こうした長年にわたる活動の積み重ねが、今日の医薬品卸に対する信頼につながっているものと考えております。

85年という歴史は、先人の皆様のたゆまぬ努力と、会員各社をはじめ、関係する多くの皆様のご理解とご協力によって築かれた、かけがえのない財産であります。これまで医薬品卸の発展を支えてこられたすべての皆様に、改めて深い敬意と感謝を申し上げます。

一方、現在、医薬品卸を取り巻く環境は、かつてないほど厳しい状況にあります。長引く医薬品の供給不足に加え、物流費、燃料費、人件費等の上昇、さらには国際情勢の変化によるエネルギーや原材料価格への影響など、安定供給を支えるためのコストは大きく増加しています。また、人口減少や人材不足、医療ＤＸの進展、サステナビリティへの対応など、医薬品流通そのものが大きな転換期を迎えています。

こうした時代にあって、私たちが決して忘れてはならないのは、医薬品卸が単なる流通業ではなく、国民の生命と健康を守る医療提供体制の一翼を担

う「社会インフラ」であるということです。必要な医薬品を、必要な時に、必要な場所へ、確実かつ安定的に届ける。この使命を将来にわたって果たし続けるためには、医薬品卸が持続可能な事業基盤を確立するとともに、医薬品の価値、そして、医薬品流通が果たしている役割と重要性が、社会の中で適切に評価される環境を実現していかなければなりません。

創立85周年は、これまでの歩みを振り返る節目であると同時に、次の時代に向けた新たな出発点でもあります。私は会長として、先人が築いてこられた歴史と伝統をしっかりと受け継ぎながら、時代の変化を的確に捉え、医薬品卸が将来にわたり安定供給という使命を果たし続けられる環境づくりに、全力で取り組んでまいります。

そして、会員各社の力を結集するとともに、行政、医療関係者、製薬企業をはじめとする関係者の皆様との連携を一層深めながら、医薬品流通のさらなる発展と、国民の皆様から信頼される医薬品卸の実現を目指してまいります。

85年の歴史を礎に、90年、そして100年へ。これまで受け継いできた使命と信頼を次の世代へつなぎ、これからの医薬品卸の新たな歴史を、皆様とともに力強く築いてまいりたいと考えております。

## 卸連合会の組織としての変遷

**昭和16年１月**
全国地方卸薬業連合会（全薬連）創立

**昭和21年４月**
全国医薬品配給協会設立

**昭和23年３月**
全国医薬品配給協会を改組、医薬品販売業者協会設立

**昭和25年５月**
医薬品販売業者協会を医薬品卸売業者協会と改称

**昭和27年６月**
医薬品卸売業者協会を日本医薬品卸業協会と改称

**昭和29年11月**
日本医薬品卸業協会を解散、日本医薬品卸業連合会設立

**昭和53年７月**
卸連合会の社団法人化が厚生省から認可

**平成25年４月**
一般社団法人に移行、法人名を日本医薬品卸売業連合会として設立



第１回
社団法人日本医薬品卸業連合会
総会（昭和53年７月）




第１回
一般社団法人日本医薬品卸売業連合会
通常総会（平成25年４月）